

第6回理事会

日時：2010年6月28日（月）

18:30～21:40

場所：札幌第一ホテル

議 事 録

1. 開会 岡澤専務理事
2. JCIクリード唱和 熱田理事
3. JC宣言朗読並びに綱領唱和 松井理事
4. 出席者の確認 大越委員長
理事長／玉腰勇吉
副理事長／小澤輝真・白戸君央・北嶋仁
専務理事／岡澤邦幸
監事／荒木健介・鈴木博昭
常務理事／白井晴彦
常任理事／齊藤康二・高橋昭典・石田浩士
理事／池崎潤・伊澤祐輔・熱田直樹・齊藤大輔・松井勝史・田中良弘・荒木康充・岸田卓也
オブザーバー／川口淳・田崎秀明・東岳夫・太田富士栄・千葉直哉・竹原慎雅・林将告・大越誠之
欠席者／小田切英樹・小林万記
5. 議事並びに資料の確認 岡澤専務理事
6. 議事録署名人及び作成者の指名 玉腰理事長
議事録署名人／田中良弘・荒木康充
議事録作成者／総務運営委員会
7. 理事長挨拶
玉腰理事長

皆様こんばんは。気が付くと、本当に半分を過ぎようとしている第6回理事会という事で、本日の議案を見ると、協議案件に全道大会留萌大会LOMナイトが上がってまいりました。卒業予定者の一覧を見ると、私の名前があり、非常に長いようで短いJCだったと思っております。先日行われました創立記念例会、千葉委員会のセミナー、そしてエリアの大会等、皆様にはご尽力賜りまして、全て終了する事が出来ました。有難うございます。そんな中、私は今何を感じ、皆様に何を伝えるべきかを日々考えておりました。事業が上

手くいく、いかない、これはその委員会にとって大切であり、札幌青年会議所にとっても重要な事ではあります。しかしながら、我々は青年としてもっと大切な事があるのではないのでしょうか。

皆さん、JCは好きですか。私がもし問いかけた時、きっとここにいる皆さんは、JCの事を好きですと言ってくださると思います。何故、JCが好きなのでしょう。少なくとも私は、JCが好きなのではなくて、メンバーの事が大好きです。JCという団体ではなくて、そこに集っている仲間が大好きです。そんな想いで今まで11年間、青年会議所をやってまいりました。若いメンバーも、年数が経っているメンバーも、何ら変わりなくJCを愛している、そんな中に、今半年が過ぎ、きっと上程も佳境に差し掛かってきた中で、委員会運営、上程に追われていると思いますが、委員長並びにスタッフが一番心がけなくてはならないことは何か、間違いなく、人との繋がり、絆を大切にする、そこが一番重要だと私は思っております。どこかで誰かが汗をかいている、そんな仲間を助けよう、担おう、そんな気持ちが集まって、青年会議所の原動力に繋がっていると、私は確信しております。どんな事業も行きたくないかも知れません。やりたくないかも知れません。しかしながら、仲間がどこかで汗をかいていると思えばこそ、手伝おう、頑張ろうという原動力が沸いてくるのではないのでしょうか。そんな想いを、我々は次世代に繋いで行かなければなりません。それこそが、青年会議所が脈々と59年間続いてきた、本当の意味でのタスキなのではないかと思えます。今、会員拡大・組織活性化実践会議が、必死になって、会員拡大を進めております。確かに事業も大変かも知れません。しかしながら、毎日汗をかいている仲間が居ます。海野君は、もう既に中国へ旅立っております。我々を代表して、遠くで頑張っている仲間も居ます。そんな仲間のために我々がしてあげられる事、一人でも多くの仲間を募り、次年度へ引き渡すことだと、私は考えております。今一度、ここにお集まりの皆さんにお願いをしたいと思います。一人でも多くの仲間を、60周年に向けて、何とか一人でも多く集めていただきたいと思います。そして、我々のこんな熱い想いを次世代へと引き継いで行きたいのです。私は、残された少ない時間を、心の部分を皆様へ伝承できるように、日々精進してまいりたいと思っております。少なくとも、ここの席に座っている皆さんには、私を含め責任があるはずです。その責任を最後まで、12月31日まで、全うする事を私はお誓い申し上げ、甚だ簡単ではございますが、冒頭の理事長挨拶とさせていただきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

8. 直前理事長挨拶

皆さんこんばんは。第6回理事会という事で、大変暑い中お集まりいただきまして、有難うございます。これで半分という事でございますが、理事長からもお話しがございました通り、先般行われました道央エリア大会におきましては、60名近い、多くの札幌青年会議所のメンバーにお集まりいただきまして、誠に有難うございました。玉腰理事長からは、とても大切にされているトライクをお貸しいただきました。乗るのがとても大変だったのですが、どちらかというと、私は海の男という事で、長靴と大漁旗が似合う男が、あんな格好いい設えで出させていただいて、大変感謝したいと思います。そんな中、まさに交流がメインという事で、ひたすらカーレースとジギスカンを食べてのエリア内の交流

という事でした。白井常務がまさか玉腰理事長より速いラップで運転されるというのは、全く夢にも思いませんでしたし、玉腰理事長が大変悔しそうな顔をしていたのも楽しく、大変和気藹々としている姿を拝見させていただきました。

理事長からもありましたが、私も9年青年会議所をやらせていただきまして、それぞれの年に、色々な委員会に配属され、それぞれ事業を、その年その年いただいたものを一生懸命やらせていただきました。そして一番大きな財産として今あるのは、9年間でいただいた、大変素晴らしい、多くの友情であります。多くのメンバー、先輩、それらが私のJ Cに入ってからのものでございます。もしJ Cに入っていなければ、それほど多くの素晴らしい方々と出会うことも無かったと思います。これが大きな財産としてあるのです。そのためには、多くのメンバーを是非、この素晴らしい組織に連れてきていただきたいと思っています。一人でも多くの方に、一緒にやろうと声をかけるという事が一番大切だと思いますし、私も残り半年の中で、その良さを精一杯伝えてまいりたいと思います。いよいよ全道大会です。先週末も土曜日に芽室で地区の役員会、昨日は伊達でJ Cリーグ予選でした。土曜に芽室に行き、その夜に地区総務の田中委員長の車で伊達に入り、朝一番から北嶋キャプテン、鈴木監督率いる札幌チームは非常に熱い中、何とか決勝に行きました。札幌メンバーで、朝起きなかったメンバーも居たものですから、先輩にご迷惑をおかけして、叱られる場面もあったのですが、非常に楽しく、他LOMのメンバーとも交流させていただきました。これからまさに事業も佳境に入ってまいります。是非色々な場面で集う事によって、今年でしか味わえない仲間と共に、最後まで全力で突っ走っていただきたいと思っています。事業の成功、失敗という以上に、我々は市民意識の変革運動をしている訳ですが、事業をやるための事業に決してならず、その先にある市民意識の変革を、そのためにはメンバー一人ひとりの意識が変わる事が重要だと思っています。とにかく、メンバーが多く集って発信しなければ、事業をやる事、その先にある我々の運動を広く伝えるという事に繋がって来ないと思います。まさに今月来月再来月と事業が目白押しだと思います。悔いの残らない、素晴らしい一年を全うしていただければと思います。来月には、根室の地で北方領土返還要求現地視察大会がございます。なかなか返還されない北方領土、必ず我々の手で戻すのだという意識をもう一度認識したいと思いますので、是非ご参集のほど、よろしくお願いいたします。

9. 議長の選出

定款に基づき、玉腰理事長。

10. 前回議事録の承認

玉腰理事長

何かございましたら、本理事会終了までに総務運営委員会にお申し付けください。無き場合は、理事会終了をもって承認とさせていただきます。

11. 審議事項

(1) 2010年度(社)札幌青年会議所 理事長杯ゴルフ大会開催報告(案)の件

石田室長

資料に基づき説明。

【決算確認】

白井常務理事

勘定科目、金額共に適正に処理されております。

【意見・対応】

熱田理事

6番、78名のうち懇親会参加が27名という事ですか。そうすると、「内」と記載した方が良いのでは。

石田室長

記載は、訂正させていただきます。

熱田理事

個人的には楽しくゴルフをさせていただきました。林委員長有難うございました。その中で、来年以降ですが、昨年はやらない、今年は理事長の方針でやるという事になりました。今年、林委員長が携われた中で、来年以降もこのような交流的な事業を続けるべきなのか、続けるべきではないのかというのは、私は続けても構わないと思いますが、その方向性について記載が無いので、どうお考えなのかだけ、教えていただきたいと思います。公益社団の関係で、昨年度はやりませんでした。しかしながら今年は、昨年やらなかった事を受け、OBの方々から是非実施した方がいいという声があった中で開催されました。やった成果があるのなら続けていくべき、ということは触れても良いのではないかと思います。

玉腰理事長

それは、次年度以降も引き継いで行った方がいいというご意見ですか。

熱田理事

成果は記載されても良いと思います。

玉腰理事長

開催目的の実現と成果で、特別会員と親睦を深める事が出来た、という記載では足りないと、それを次年度への引継ぎ事項にも盛り込んで欲しいというご意見ですか。

熱田理事

委員長所見も読ませていただきましたが、理事長杯ゴルフをやる、やらない、という間の中で、この事業をやられたと思います。ですので、理事長杯ゴルフに対する思い入れも出来ると思うのです。そうすると、来年以降、自分の担当した例会だから、もう少し記載しても良かったのではないかと思います。意見ではなく、感想とさせていただきます。

伊澤理事

当日行っておりませんでしたので、私は言うべきではないと思っておりました。今、熱田理事のお話を聞いておまして、昨年はこの事業はありませんでした。今年は復活して開催いたしました。担当した委員長は、希望を述べるべきだと思います。それは、この理事長杯ゴルフを企画した当人の言というものは、我々今年のメンバーの、ある意味代弁者という事になります。その上で熱田理事は、もし公益社団法人という制約があるにせよ、

良ければやった方がいいというニュアンスで、次年度に引き継いで欲しいという事を言われたと、私は理解しております。それを、次年度の理事長が、次年度のキャビネットが、次年度のメンバーが考えることだからという事で記載しないという事は、無責任なのではないでしょうか。私は、今の熱田理事のお話は尊重されるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

玉腰理事長

意見として伺ってもよろしいのでしょうか。基本的に、上程書にこの事業を次年度以降も引き継いで欲しいという記載を、私は見た事がありません。基本的にですが。そういう事ですので、次年度への引継ぎ事項に記載するべきではないと私は考えておりましたが、いかがでしょうか。

伊澤理事

そういう考え方もあるでしょう。ただ、間違いなく、前年度は無かった事業です。無かった事業を、今年復活させたという事です。ということは、今まで無い事をやったという事です。その意味で、林委員長が引き継ぎの所で書いても、何ら差し支えの無いことだと思います。これを、次年度への引き継ぎに書いたからといって、縛るものでは無いと思います。今時点の我々メンバーの代表者の意見というものは、当然記載しても構わないはずです。

玉腰理事長

仰っている事は解りました。しかしながら、それを書く、書かないは委員長が考える事であって、我々理事者が書け、書くなというものではないと思います。これは協議を経て出てきている訳です。書いた方がいいという意見は、これまたおかしい話だと思います。それに対してはいかがでしょう。

伊澤理事

私は、確かに理事長の仰ったとおり、書けという事ではないにしろ、書くなというのもおかしい話です。今時点での、我々メンバー代表としての林委員長にそういう気持ちがあるのならば、書いても差し支えない訳です。それを明記する、しないという話は、ちょっとずれてしまいます。自分自身が行ったものの評価というものを、もっとはっきり打ち出した方がいいという熱田理事の意見だと思います。

玉腰理事長

それは、開催目的の実現と成果では足りないとおっしゃっている訳ですか。

伊澤理事

私は足りないと思います。公益社団法人という足かせがあった中で、それでもOBと現役との交流事業をLOMの費用でもって行うという事の良さを伝えるためには、もしそういう気持ちがお有りであれば、書いてしかるべきではないでしょうか。

小澤副理事長

上程には、委員長の想いの全てが詰まっておりますので、ここで私たちが書けというべきものではないと思います。

伊澤理事

解りました。

【採決】

満場一致で可決。

（２）２０１０年度（社）札幌青年会議所 八月「臨時総会」開催（案）の件
白井常務理事

資料に基づき説明。

【予算確認】

白井常務理事

勘定科目、金額共に適正に処理されております。

【意見・対応】

なし。

【採決】

満場一致で可決。

（３）２０１０年度（社）札幌青年会議所 九月「札幌の近未来創造」例会開催（案）の件

齊藤室長

資料に基づき説明。

【予算確認】

白井常務理事

先ほどご説明がございました通り、予算金額が上がっております。その中で一部訂正とお詫びを申し上げます。以前、５月の理事会にて協議上程させていただきました木村氏の謝礼費、４０万という事で計上しておりましたが、こちらが源泉込みと記載していたところ、今回、源泉徴収が入っていないところがございますので、改めて４４４，４４４円という事で記載させていただいております。後は勘定科目、金額共に適正に処理されております。

北嶋副理事長

今回のこの事業、シャワー通りで行いたいと思っております。前回の意見でだい・どん・でんとの絡みという話でしたが、あくまでもだい・どん・でんの集客を見込んでという事ではなく、今日の理事会が終わった後、委員会にて、オーガニックに興味のある飲食店を回って、企画書を配布させていただきます。詳細図に書いてある椅子席は、指定席ではございませんが、その席に関しては、委員会の方でオーガニック、飲食店の関係者で埋める予定でございます。その他の流動客に関しては、だい・どん・でんからの引き込みを行いたいと考えております。また、委員会の考える近未来ビジョンという事で、このシャワー通りに関しては、毎年継続してファーマーズマーケットを行うという事を実行委員会で検討しております。実行委員会でも前向きに、毎年この日に、この通りをファーマーズマーケットにして行こうという機運が上がっている事をご報告申し上げます。

【意見・対応】

荒木副議長

せっかくチラシを作ったからには、青年会議所はこういう事をしているのだという事を市民に知っていただくためにも、メンバーで配る等の手伝いだけでなく、その他の設えを考えた方が良いのではないかと思います。

齊藤室長

当日のメンバーですが、だい・どん・でんの会場が駅前通りですから、通りを行く市民に広報することもありますし、前回にも、会場としては多少狭い所ですから、警備をどうするというお話もございました。まちづくり株式会社とも相談させていただいた上で、今回は5名の警備員を配置させていただきますが、それはあくまでもステージ付近の警備という事であって、当日会場におきましては、勿論メンバーもお手伝いいただく事を考えております。

荒木副議長

みなでお手伝いをするという設えを考えているという事でよろしいのでしょうか。

齊藤室長

基本的には委員会メンバーであたっていこうと考えてはいるのですが。

荒木副議長

警備もあるとは思いますが、実際青年会議所がこれを主催しているというのに、メンバーがその辺でぶらぶらしていたら困ると思います。そういう意図で、札幌青年会議所がオーガニックフェスタをしますよ、市民の皆様もご覧くださいというような事でメンバーも取り組まないと、委員会だけがやっても駄目なのではないでしょうか。

齊藤室長

ありがとうございます。勿論そのように委員会ともどもさせていただきたいと思います。

荒木副議長

協賛金の話もありますが、協賛金は一〇口くらいとか決まっているのでしょうか。

齊藤室長

現時点でテントをまるごと一つ使う場合には20万円と考えております。それ以外の時は検討という事です。それ以上の決め事はございません。

荒木副議長

協賛金を貰うのに、ブースの形を決めていないというのは、後で揉め事になる可能性があると思います。おそらく、ブース一つあたり20万というものがあって、その辺臨機応変に行うという考えではあると思いますが、例えば幅が広い、狭いという事があって、協賛金を貰うという意味では問題があります。青年会議所のお金を使うという部分に関しては、青年会議所の事業費ですから問題ありませんが、他の会社からお金を貰ってやるという事になれば、そのような甘い考えではまずいと思います。いかがでしょうか。

齊藤室長

20万という事で動いておりましたが、今いただいた意見を踏まえて、いくらだったらのくらいの広さという事を検討いたします。また記載にもありましたが、広報のチラシの大きさについては委員会でも考えておりましたが、そういった所は、お金をいただく部分でございますので、そこは開催までにしっかりと決めて、その上で協賛企業を募集したいと思っております。

荒木副議長

問題にならなければ良いのですが。私、昔に協賛金を貰ったという事がありまして、先方の会社が興味を持って、それで協賛してくれると思いますが、この25万だかには、広告協賛も入っているのですか。テントだけの協賛なのですか。

齊藤室長

両方入っております。

荒木副議長

それはきちんと記載するべきだと思います。

北嶋副理事長

企業協賛の金額に差があるのに問題は無いかというご意見ですが、常任理事会でも出ました。対応としては、実際、金額に差はありますので、集客能力をより見込める、駅前通り側にするなど考えておりましたが、確かに、はっきりとした線引きを考えるべきだと思います。開催までに2ヶ月ありますので、企業協賛の部分に関しては、委員会でしっかり煮詰めて、必要とあれば、メール等で理事者に配信させていただきたいと思います。

荒木副議長

事業前に、今、北嶋副理事長がおっしゃるように、そういう丁寧なやり方の方が、私は良いと思いますので、それで進めていただきたいと思います。また、非常に心配なのは、万が一企業協賛が集まらなかった場合、事業費の部分が出て来なくなるということもございますので、その辺は充分お気をつけになった方がよろしいかと思います。

田中議長

今の質問の件ですが、齊藤室長の説明では協賛金を集めると仰っていましたが、上程上に「スペースの問題で1、2社程度になる見込みです」と記載があります。それはどうなるのでしょうか。

齊藤室長

現時点で空きと言いますか、分けたということもありまして、実際あと3社ほど余裕があります。ですので、委員会では協賛企業を募りたいと考えております。

田中議長

それは記載した方が良いのではないのでしょうか。

北嶋副理事長

第5回三役会の意見・対応ですが、対応で、現在1社から協賛の内諾をいただいています。「スペースの問題もありますが、3、4社程度になる見込みです」に修正させていただきます。

田中議長

予算書の変更部分、冊子の件の説明が無いです。また、マルシェの登録料、前回10件であったのが、今回5件になっています。変更になっているので、説明が必要ではありませんか。

齊藤室長

冊子が追加になっている件ですが、今回、目的として市民意識の醸成を図りたいということ、そして今回プレゼンテーションを、映像で流す訳ではなく委員長が言葉で話す形式

をとらせていただいております。ただ当日は、農業、オーガニック、こういう事に興味がある方もいらっしゃると思いますし、当日はだい・どん・でんもやっておりますから、こういった事にあまり興味が無かった方にもご来場いただく事を考えております。それで、大体の参加人数が2,500強と考えているのと、また、委員会も積極的に広報に回りますので、その分も加えて3,000と考え、この数字を記載させていただきました。そして先ほどのマルシェ登録料、当初10件前後出そうと考えておりましたが、今あちこちにお話させていただいて、前向きな農家さんが大変いらっしゃる、それが5件ほどあるという事ですので、前回からの数字を変更させていただいております。

北嶋副理事長

冊子に関しては、この例会の一番の目的は市民意識の醸成という事ですので、何故今オーガニックを我々がやっていくのか、から始まって、オーガニックの可能性、問題点、今後の改善方法を市民によりよく発信して、市民意識醸成を図るという事です。一過性の事業で終わらせるつもりも無くて、今後どうやって広がっていくのかという事が重要な部分でございますので、その一つが、この冊子を多くの市民に配り、機運を高めて行くというツールとして、配布したいという事でございます。以上です。

松井理事

チラシですが、片面だけのこのチラシが1万枚ですか。

齊藤室長

裏面も予定しておりますが、裏面は協賛企業について掲載させていただく予定でございますので、まだ上がっておりません。

松井理事

配布先リストを見ると、実行委員会に5,000部あって、手分けして配布して貰うという、曖昧な記載なのですが、半分以上手分けして配布して貰うというのは、どういうようにしようと思っているのでしょうか。

齊藤室長

実行委員会に手分けして配布して貰うという曖昧な記載になっているのは申し訳ございません。こちらは実行委員会と話し合った上で、これだけの部数が欲しいと言われているものでございます。その上で、半分を実行委員会に配っていただこうと思っておりますが、いかがでしょうか。

松井理事

それはそれで良いのですが、その理由も必要ですし、要はメンバーで作り上げていかないと、飲食店関係に1,500枚、ここを厚くしていかないとおかしいと私は思います。メンバーに20枚ずつ2,600枚お願いするというのは、意気込みが見えません。半分以上は丸投げです。殆ど委員会、メンバーをお願いしていません。その辺を改善すべきだと思います。

齊藤室長

貴重なご意見有難うございます。飲食店に是非多く配りたいと考えておりますので、部数を実行委員会と協議しながら、必要な枚数を配るようにいたします。

伊澤理事

前回から日にちも増え、呼ぶ方も増えて、協賛の部分も意味合いが変わってきたように思うのですが、何故再協議にできなかったのか教えてください。

北嶋副理事長

人に関しては増えてはいないと理解しております。日程に関しては確かに4日5日というように変わりました。ただしこれは、実行委員会ベースでの話で、前回から立ち上げてやっていく中で、あくまでファーマーズマーケットだけは9月4日、実際の例会としては9月5日としてさせていただきたいと考えております。内容に関しては、当初の内容からは大きく変わっていないという理解のもと、審議上程といたしました。

伊澤理事

全然整理されていないという印象を受けます。食と言う切り口は解りますが、食に対しても、オーガニックで全部行くのかと思えばそうでもなさそうです。川上から川下まで一度に全部しようとしているのは解りますが、それを二日に分けて、4日には飲食、5日にはこれをとしても、効果的であるのか、非常に疑問です。本当に委員会として、この内容を全部やろうとするのであれば、例えば二日に分けるという発想ではなく、就農支援というものを切り離して、これを別の所に対して啓蒙していこうという事をやって、理解の度合いを一段階、二段階に分けて、位置付けを図った方が良いのではないのでしょうか。

齊藤室長

本例会の目的は、市民意識の醸成と、札幌の食ブランドの強化という事を考えておまして、決して、例えば就農だけという所に特定されるものではありません。確かに伊澤理事のおっしゃること、理解出来るところもございます。全てをやりたいと言うと乱暴ですが、本当に委員会としては、食ブランドの強化のためにオーガニックという所に着目して、そしてこれを本例会から市民の皆様に強く広めていくためには、ある程度全てを網羅した形を考えているという現状でございます。ご意見ごもっともという所でございますが、是非この形でさせていただきたいと思います。

伊澤理事

網羅して理解していただくのであれば、段階を踏まないと理解などしてもらえません。前回、協議上程を見せていただいて、些細なことかもしれませんが、疑問に思った事で、札幌の遊休農地がこれだけあり、それを20アールに分けてどうのこうのと書いていますが、そんな面積でオーガニック農法をやったら、本当に出来るのかという疑問が湧いてきませんか。基本的にこういった農業をするという事は、生産性が間違いなく落ちるという事です。そういう事で、非常に付加価値をつけなければならない、単価も上げなければならないという事ですよね。それを広めるという事は、二重にも三重にも足枷があるから、こういった講師にやって貰わなければならないという事があるのですが、そういった説明もあまりなく、委員会でも検討もせず、非常に聞こえのいいものに飛びついたとしか、私には理解できないのです。もしこの中身を全部やろうとするならば、この二日間に全部集約するのではなく、ある程度の期間に渡って委員会としてこういった取組みをして、最後に総まとめとしてこういう事をしますという形にして行かなければ、本当にこの委員会がやりたい、食ブランドの構築、オーガニック農産物を作って、売って、食事もあるという流れというものを理解して貰えないのではないのでしょうか。

齊藤室長

伊澤理事のおっしゃる意見、ごもっともという点があると思います。確かに二日間だけで市民に理解していただけるのか、また、そこで全部網羅出来るのかという点につきましては、委員会としても、勿論二日間が終わるとは考えておりません。ただし、オーガニックという言葉は、聞こえは良いかも知れませんが、決してそういう事ではなくて、本当に北海道、札幌の可能性は何なのかという事を、委員会が真剣に考えた上での事です。確かに理事のおっしゃる通り、オーガニックは大量に生産出来るものではございません。こういったものを追っていくと、値段も高くなって行くこともあるでしょう。ただ、オーガニック野菜につきましては、流行という訳ではございませんが、これからの札幌、北海道の未来を考える上で、委員会として、こういった取組みをしたいという所でございます。二日だけで終わる訳ではございませんし、継続した事が必要だと考えております。ですから、冊子にあるとおり、今年がきっかけ、元年になるように、運動を発信したいと考えております。そして、これは決定ではなく、実行委員会と話している最中でございますが、協力してこういった事を展開して行きたいという事でございまして、そこがもし出来るのであれば、このシャワー通りを、オーガニック発祥の地というふうにしたいと考え、この二日間で開催したいと考えております。

伊澤理事

それだったら尚の事、再協議に持ち込まなければならないのではないですか。今無理やり、審議で通したとしても、本当に出来るのかどうか、私には考えにくいです。やる事があまりにも多岐に渡り過ぎていますから。

北嶋副理事長

非常に多岐に渡っているというのは、おっしゃる通りだと思います。この事業をやるにあたり、我々が単独で行うというよりも、実行委員会を設立して、それベースで行います。勿論我々の事業は事業で行うのですが、あくまで私たちのやるべきことは、このオーガニック、そして食という部分での市民意識の醸成です。その中に、就農支援ブースだとか、協賛ブースだとかがありますが、就農支援ブースに関しては、記載しておりますが、あくまでも実行委員会で行います。実行委員会に、笛木氏という方、北海道の農業のまとめ役というべき方でございますので、笛木氏主導のもと、この就農支援ブースは行っていただく予定です。ですので、我々が就農支援ブースの責任を持つという話ではございません。我々は場所を提供し、市民意識の醸成を図るという事でございます。記載しておりますが、企業協賛ブースは協賛していただいた企業に貸し出しますし、就農支援ブースは、先ほど申し上げたように実行委員会で設営していただく予定です。

伊澤理事

就農支援ブースは我々の手を離れるとは、何と書いてあるのでしょうか。

北嶋副理事長

当初は、我々青年会議所が場所を提供するといった部分に関わりがある、という事で記載させていただいておりましたが、いかがでしょうか。

伊澤理事

実行委員会と我々JCのスタンスというか、住み分けというか、全く整理がつかない中

で、一緒くたになって出てきているのが本上程です。実行委員会はどういう位置付けで我々に参加するのか、そしてこれは我々の事業、例会として、当然やっていくものです。例会の位置付けとして、ここにはまるというのが、まだまだ整理ついていないという事を露呈している訳です。今初めて、副理事長からの答弁で解りましたが、そこまで整理がついていないまま、ここに審議案件として上がってきて良いのですか。

北嶋副理事長

重複するかも知れませんが、就農支援ブースというのは、この例会の中の一つのオプションであり、これをメインに行う訳ではございません。この就農支援ブースに関しては実行委員会で行いますが、あくまでも場所を提供するという意味合いから、上程書に載せております。

伊澤理事

今の答弁は、整理がついていないという事を露呈しているのです。オーガニックというものに対して、食という切り口で行く、それで生産から、販売、消費まで全部関わって、委員会として考えていくのだという事を、いきなり答弁で、就農支援ブースは、生産は切り離しますよという話にはならないでしょう。全く整理ついていないという事を副理事長自ら発言された訳です。ということは、ラインで、どのように揉んでいたのですか。委員会でもどこまできちんと整理して、この上程を書いていたのですか。私にはそれが見えません。だから再協議でいかがですかと言っている訳です。

北嶋副理事長

実行委員会にも青年会議所メンバーは入っております。別にどこかに丸投げしている訳ではございません。実行委員会も、あくまで青年会議所主導で行っております。ただ、就農に関しては、我々はプロではないので、実行委員会の中に、そういった事に特化した方を入れてやっていますという意味合いですが。

伊澤理事

それなら最初から、就農支援ブースというものを書くべきではないです。我々はプロではないからというのは、逃げ口上です。実行委員会に我々が入っているのは解っています。しかし実行委員会としてどう関わるのか、そして札幌青年会議所としてどう関わるのかという線引きが、私の答弁一つで、どうにでも変えられてしまっただけは、実際に行う委員会はどうなるのですか。

北嶋副理事長

東委員会にて、オーガニックを広めて行きたいという中で、やはりどこか一つ、消費なら消費を喚起しても、なかなか広まって行かないという事があります。参考資料にも添付しておりますが、消費・生産・流通、この三つが無ければ上手く行かないだろうという事で、この就農支援ブースも記載させていただいております。ただ、どうしても我々の不得手な部分もございますので、それに関しては、実行委員会ベースでやっていただきます。この三つのうちどれか一つ行うという事ではなく、三つが一体とならなければ、この事業も意味を為さなくなるという事で、就農支援ブースを記載しております。

齊藤理事

実行委員会が重要であるというのは、この上程から見ておりまして、そこで実行委員

会についての記載が薄いという部分があって、おそらく、どうなっているのか、という部分が出て来ていると思います。08でもまちづくりフェスタを行いました、あの時も実行委員会がしっかり機能していなければ上手く行かなかったと思う事業でした。今回の件に関しては多岐に渡っているという部分が見えますが、審議が通らないと進まないのでしょうか。実行委員会はまだ立ち上がっていて、具体的な話し合いが進んでいる状態なのではないでしょうか。

齊藤室長

実際に立ち上げて進んでいる状況でございます。

齊藤理事

上程の中身、ブース等色々なファンクションがありますが、実行委員会の見えない部分が背後にあって、おそらく我々理事者が理解しかねる部分になってきているのではないかと思います。一つの委員会で行うには大きな事業ですので、今後我々も協力したいのですが、実行委員会ベースで進んで行くとなると、注意して行う必要がある部分、多々あると思いますので、判断が非常に難しい上程です。途中から聞いておりますので、実行委員会の説明を聞き逃していた部分があるかと思いますが、その辺、丁寧に説明いただけたらと思います。

齊藤室長

実行委員会でございますが、今回こういった例会を開催するにあたり、勿論青年会議所メンバーはプロではございませんので、こういったオーガニックとか、今後の未来について考えていらっしゃる方々とか、そういった方たちと、この件につきまして、最初は協力の形でお願しておりました。実際、九月例会を開催するという形になってきて、委員会と、その協力いただいていた方たちと、実行委員会の形式をとる事によって、スムーズな設営、また目的の達成が出来ると考え、こういった実行委員会を作りたいという協議上程を、先月させていただいております。メンバーにつきましては、協力者に記載させていただいております。また意見・対応にもありましたが、実行委員会の中に、協議会があり、マルシェプロジェクトを推進しているのが協議会です。こういった形で実行委員会が立ち上がって、今開催に向けて動いているという状態でございます。

齊藤理事

なんとなく理解は出来ましたが、実行委員会を組んでも、審議が通らないと先に進まない部分もあるかと思いますし、実行委員会を組んだ後の説明というのを我々は求めたいと思います。やはり理解が薄かった部分が私にもありました。出来れば、大きな事業ですので、早いところ審議を通して、事業を進めさせてあげたいという部分はございます。個人的な意見ですが、再度上程となりますとまた時間を要してしまいますので、これは非常に勿体無いという印象があります。出来ればこの場で結論を出した方が良く感じます。

荒木副議長

齊藤理事は今日決めた方がいいという意見、私も解りますが、本来であれば、今日出てきた冊子等、意見を皆で出し合って、より良くするにはどうしたら良いかという部分があって良いと思います。事業の内容もそうですが、チラシが出来て、本当にこの冊子で良いのかというと、私はそうは思いません。前にも言いましたが、市民に、よりオーガニック

野菜を知って貰う、若しくはオーガニック野菜を食べる事が出来るお店を知って貰う、消費を増やす、それが食育に繋がって、幅広く物が動いて行く、というような所が増えないと、就農支援も出来ないと思います。おそらく、野菜を知って食べて貰うという所で、もう一度組み立てが必要なのではないかと思うのですが、その辺の流れの内容が見えてこないのだと思いますし、伊澤理事のおっしゃる、流れというのでしょうか、そういうものが解らないのだと思います。冊子の中に、そういうものはどこに行けば買えるのかとか、食べられるのかとか、どこで作っているものなのかとか、そういう事を書かない限りは、配布しても解らないのではないかと思います。その辺はどうするのでしょうか。

齊藤室長

まず冊子の内容ですが、今日、審議が通りましたら、このまますぐ印刷するという訳では、勿論ございません。ですから、いただいたご意見を反映させたいという事もございますし、先ほど荒木副議長がおっしゃった通り、そういった市民がこれを見て、どういうように感じるか、また、より興味を持っていただくにはどう記載したら良いかという事については、今いただいたご意見を基に、参考にさせていただき、完成させたいと考えております。勿論チラシも然りでございます。後段の部分、言い方が悪いかも知れませんが、就農支援はそこが目的という訳では決してございません。今回の事業目的というのは、あくまでも市民意識の醸成という事で考えておりますから、来てもらって、食べてもらって、はい良かったね、という事では勿論ございません。オーガニックという言葉は、皆様もご存じの通り、意味は何となく知っているという程度だけでも、良いものだ、そういった意味で皆様は今接しているのではないかと思います。勿論、いろいろな理由はあります。ただそういった物を、今後どのように広めていくか、どういった良さがあるのかという事を委員会が考えて、生産・流通、全て網羅する事が、サイクルとして、例会として目的を達成出来るのではないかという事を考えております。いかがでしょうか。

荒木副議長

齊藤室長のおっしゃる事は解りますが、やはり食ブランドというものは、非常に難しいと思います。こちらでブランドを勝手に判断して、勝手にそれは美味しいですよと言っても、それを食べる所が無いなど、それがオーガニック野菜だけではなく、今話題になっているシカ肉等でも同じことだと思います。どこで買えます、どこで食べられます、そういった所まで落とし込むのは難しいと思います。それを今委員会でやろうとしているのですが、果たしてそこまで出来るのかどうか、とは思います。おそらくその辺も伊澤理事がおっしゃっているのだと思います。事細かく、消費の部分まで考えると、凄く内容が濃くなると思います。変な話、それが成功すれば、凄く面白い事になるのではないかと思います。冊子の件にしても、札幌青年会議所の玉腰理事長の写真が載って、札幌青年会議所が発信していますという事になる訳ですから、その辺も充分考えた冊子、チラシを市民に配布しないといけません。充分注意を払う必要があります。審議を通す、通さないという話よりも、そういう所をもっと気をつけないとまずいのではないかと思います。いかがでしょうか。

玉腰理事長

今の荒木副議長のご意見を踏まえた上で、そこまで考えた冊子、チラシを作るという事

で、齊藤室長よろしいでしょうか。

齊藤室長

そのように考えております。また、補足を一ついたしますが、どこでオーガニック野菜を食べる事が出来るのかなどのリストにつきまして、これからチラシを飲食店に配布いたしまして、色々と折衝していく訳でございますので、その中で委員会としてリストを作るなどをして、当日お越しになった方に、資料としてお渡しする事を考えている所でございます。配布させていただくという事で考えております。今いただいたご意見から、そういったことも載せていきたいと考えております。

荒木副議長

委員会で努力していただきまして、そういった所を作るなりして、システムの考え方の構築が大事なのではないかと考えております。

岸田理事

事業としては、素晴らしい事業だと考えております。今年だけではなく、これからも継続していくのだという想いの中で、事業を構築しているのだということは、非常に素晴らしい事なのではないかと思えます。あとは、この事業をしていく中で、組み立ての方法論がおかしいかと。先ほど齊藤理事もおっしゃいましたが、今日これを決めるべきだとは思えます。ですが、どの方法論が悪いのかという所をピンポイントで指摘して、ピンポイントで解決していけば、話が長引くものでもないと思えます。素晴らしい事業だと思えます。ただ、松井理事からも出たように、例えばチラシを作りました、あとはどこかに渡します、という事では、人任せではないかと思えます。上程の中で、やはりJCとして行っているのですから、少し汗をかこうというの、あって然るべきかと思えます。そういう部分で、想いがあって汗をかく、という所が人に感動を与えるし、事業として素晴らしさを市民に伝える事が出来るのではないかと思えます。その部分がしっかり出来れば、皆さんは納得するのではないかと、私は思えます。

熱田理事

私も東委員会に参加させていただいて、私は実行委員会の経験はございませんが、色々話を聞いていると、どうしても委員長という立場、役職の中で、相手方に正式な答えを出す事が出来ない、これは、齊藤理事も岸田理事もお話しがございましたが、JCとしてしっかりとした答えを、ある程度こういう事でいきますので、相手方の団体と話をしていただけののであれば、ここはちょっと審議を通して欲しいということと、あと、本当に誤解があるのは、どうしても相手方の都合があり、審議対象資料としてここにチラシが出てきておりますが、これが誤解を招いていて、バージョンアップするならば良いと聞いておりますので、しっかりしたチラシ、冊子を作成しますし、あと実行委員会という名前に乗っかっている訳ではなく、一緒に、一体となって取り組んでいるという東委員会があるという事をご理解いただいて、理事者の皆様に決を取っていただいて、東委員会が動きやすくなる環境を作っていただければ助かります。

伊澤理事

皆様のご意見を伺っておりました。相手があって、時間が迫っている、だから審議を通さなければならないというのは、普段松井理事がおっしゃっている表現を借りれば、これ

はJCではないと、私は考えております。自分たちの事業を自分立ちの手で整理も出来ないのに、素晴らしいという言葉で、時間が無いから審議を通してくれという事にはならないと思います。理事長が先ほどおっしゃっていましたが、委員会をきちんと素晴らしい方向に導いて行くということの担保は、どこにあるのでしょうか。

北嶋副理事長

只今理事者から色々なご意見をいただきました。その部分を踏まえて、冊子、配布先も含めて、より良いものにして参ります。必要ならば、メールにて、随時状況報告をして参ります。よろしくお願いいたします。

伊澤理事

今この時点で整理出来ていないものを出されて、時間が無いから審議させて欲しい、後はメールで報告するから何とかしてくれというのは欺瞞です。

玉腰理事長

今の伊澤理事のご意見で、整理されていない議案であるという事がございました。これに対して、理事者の皆様からお話しを聞かせていただきまして、この議案が実際に整理されていないという結論が出た場合は、私も、整理されていないものを上げる訳には行かないとなりますので、これは協議に差し戻しさせていただきたいと思います。私の立場として、あまりこういう話をしてはいけないのですが、整理がされていないとは思っていなかったものですから、他の理事者の皆様にご意見をいただいてよろしいでしょうか。

岸田理事

先ほど確認したのですが、実行委員会、または外部協力者、昨年、ライトアップに関してこういった実行委員会を開催させていただいて、同じような意見が理事会で若干出ました。それは、実行委員会とはどういう役割で、誰がどのような方向性で、何をしているのかという所が見え辛いという事です。対外的には、人を入れて物事を進めるという所が見え辛い部分がありますが、上程資料の中に組織図があって、この人にはこういう役割の中で、こういう事をして行くのだという事が、しっかりと明確に伝えられているのであれば、こういった話が出ないのではないかと思います。それと、事業としては素晴らしいものだと思いますので、その中で、何がどうなのかという事を、ピンポイントでしっかりと、ここはこうすべきだという事を、こうあるべきだという事を、抽象的ではなく、明確に話をしなければ、なかなか見えないのではないかと思います。

荒木副議長

上程上は、整理されている、されていないではなくて、きちんとなっていると思います。要するに細部について、流れが解らないということなのではないかと思います。上程上は整理されていないという話ではなく、そういうことは今後明確にしていけば良いのではないかと、私は思います。それを、あくまでも今後行うという意見だと思いますので、それは室長も、やると言っておりますし、整理云々ではなく、実際に行うという事が大事なのではないかと思います。上程も大事ですが、ここで気づいた点を理事者が述べて、それをラインで、もしくは齊藤理事がおっしゃったように全メンバーで動いて、協力して、やっていくというのが青年会議所だと思いますが、間違っているでしょうか。伊澤理事は、整理されている、されていないというお話しなのかも知れませんが、そういう所の住み分け

を、上に立つ人間が皆で議論して、それでこの上程をもっと良くするという事が、そういう意見の場が理事会だと思います。即答の答えは出せないのですが、いかがでしょうか。

松井理事

私は、先ほど質問した以降は、質問はありませんので、これで良いと思います。私は、この場は、議論をした方が良いと思います。喧嘩腰ではなくて、ピンポイントでもう一度整理して、どこがどうだ、こうだと言った方が良いと思います。質問して、質問に答えてとやっていけばいいと思いますが、かれこれ1時間くらいやっていて、前に進まないと思います。

齊藤理事

整理している、していないという話ではなく、確かに、沢山の事が書いてありますので、頭に入りにくい部分もあるかも知れませんが、私は何とか理解しているつもりですので、出来れば今日、疑問点があればこの場で解決して、クリアにして行きたいと思います。時間が無いから審議を通さなければならないという話ではなくて、やるならやる、やらないならやらないと、この場で決めた方が良いという意味合いの、私の意見でございましたので、その辺、言葉が足りなかったという事であれば申し訳ございませんでしたという事で、補足させていただきます。

玉腰理事長

伊澤理事のご意見を踏まえて、各理事者にお話しを聞いた結果、決して、バラバラで審議上程に耐えられないというものではないというように、議長判断として受け止めました。その中で、伊澤理事にお願いしたいのは、ここはおかしい、ここはこういうようにした方が良いのではないかとのご意見がございましたら、そこは真摯に受け止めたいと思います。いかがでしょうか。

伊澤理事

他の理事がそのようにおっしゃって、大丈夫だとおっしゃるのであれば、私としては受け入れざるを得ません。ただ、先ほどおっしゃった、副理事長のお言葉、この上程が審議で通った後も、進捗状況なり、このように変わっていったという事を、きちんとした形で報告してください。私が懸念しているのは、私が今日、一つ一つの事象についてどうのこうのとは、私は言うておりません。何故このような事をするのだとは、一言も言うておりません。ただ、委員会の中であまりにも、関わり方、組み立て方というものが、きちんと議論されていないのではないかと、私はこれを見ていて真っ先に思った事なのです。そういった事を無くすために、副理事長が答弁でおっしゃったように、今後、例えば理事会の場でも構いませんし、メールでも構いませんが、そういった中で、今こういう状況で進んでいます、まだまだ足りないのでご意見を、という場を是非作ってください。それでないと、いくら実行委員会を立ち上げたとしても、いくら主導権を握ったとしても、委員会が目論んだように、次に繋げていくという事は出来ないと思います。

玉腰理事長

今、伊澤理事のご意見を承って、実行委員会の進捗状況、そして解らない事があれば、各理事者の皆様にメール等で質問をして、今後進めて行く方向をきちんと示すというお約束を、副理事長、出来ますでしょうか。それでは、お約束をさせていただいたという事で、

各理事者の皆様から賜った意見も反映していくというお約束もさせていただき、審議に移りたいと思います。

【採決】

満場一致で可決。

(4) その他

なし。削除。

12. 協議事項

**(1) 2010年度(社)札幌青年会議所 第59回 北海道地区会員大会「留萌大会」
札幌LOMナイト開催(案)について**

竹原委員長

資料に基づき説明

【予算確認】

白井常務理事

本件につきまして、予算書といたしましては事業費を、また飲食費を参考予算書として作成いただいております。勘定科目、金額共に適正に処理されております。

高橋室長

当日のスケジュールといたしましては、決してこのスケジュールに固執するという訳ではなく、あくまでも例年の実績から、ゆとりを持たせていただいております。

【意見・質問】

荒木副議長

LOMナイトの上程ですが、竹原委員会は2回LOMナイトを終える事になる訳ですが、単独ではこれで最後の事業となる訳ですので、1回目、2回目の事業を踏まえた上で、3回目に臨んでいただきたいと思います。

齊藤理事

参加対象者130名という記載がありますが、添付されている会場の席図は80名で計算してあります。人数が増えても大丈夫なのでしょうか。

竹原委員長

結論を先に申し上げますが、この会場では130名は入りません。着座という形式を取った場合ですが。80座席で設定させていただいておりますが、当委員会が設営側となりますので、当委員会はこの中に含まず、という事で考えております。従って、この席数プラス十数名という事を想定しております。当然、一人でも多くの参加を促していく中で、仮に100名を超えた場合、着座という形式が変更になることも、方法としては考えられます。全員が参加出来ないという事にはならないように、方法を検討して参ります。

齊藤理事

会場が留萌という事で、会場探しも大変だったと思います。出来れば今年、各例会の出席率が高いものですから、沢山の人が来て、嬉しい悲鳴というか、席次も大変だというくらい苦労されるようなケースも考えられます。その辺、参加したメンバーが、ちょっとこ

の会場はどうだったのか、という印象を持たないような設えを、知恵を絞って考えていただければと思います。

松井理事

去年、卒業予定者は何名中何名出席していたのでしょうか。

竹原委員長

昨年は１７名か１８名の卒業予定者に対して、９名という状態であったと記憶しています。

松井理事

是非、一人でも多く参加していただけるよう頑張ってください。書いてあるのですが、各委員会にふるのではなく、委員会で行くなり、電話するなり、工夫をしないとけないと思います。電話する等、そこがＪＣだと思いますので、委員会で工夫して、２１名全員に参加していただけるようにやって貰いたいと思います。

岸田理事

先ほど竹原委員長に聞いたところ、非常に由緒ある老舗旅館というか、料亭というか、そこで設営出来るという事は、会場が無い中で、非常に有り難い事だと思います。私も地区に出向して、担当委員会としてそこそこ大御所のゲストをお呼びして、留萌大会で最後の仕事が出来るといふ喜びと、それと最後にＬＯＭナイトとしてそういう場所で出来るといふ事に感謝申し上げます。また、松井理事がおっしゃったように、一人でも多くの現役メンバーに来ていただいて、最後、本当に青年会議所に居て良かったというような設えをしていただければ大変有り難いと思います。あと、老舗料亭という事でございますので、楽しい設えを期待しております。

熱田理事

不安要素がありまして、どこに泊まろうかという事です。小澤副理事長が渉外委員長の時に、健康ランドを借り切ってやったという記憶がありますが、私は少々留萌については明るいもので、本当に施設がありません。どうしても始まり、終わりの時間が決まっているので、その辺上手く連動して欲しいと思います。あと、卒業予定者が２１名だそうですが、地区大会に卒業予定者が１００％集まったことは、今まで一度も無いはずですが、その部分に関して、竹原委員長に音頭を取っていただいて、各委員長は卒業予定者に１００％出席していただけるように、そちらに時間をかけて欲しいと思います。そうすると、卒業してから、あの時留萌に行って良かったと思って貰えるのではないのでしょうか。あと、三役に卒業予定者が多くいらっしゃいますので、アテンド等雑にならないように、広報渉外委員会にはお願いしたいと思います。

竹原委員長

宿泊につきましては、早い時期から、観光協会、留萌青年会議所を通じて探しております。留萌青年会議所で、宿泊先には網をかけているという事です。これから各ＬＯＭに振り分けるそうですが、現在の情報としては、札幌が早い時期からお願いをしていることと、こちらの会場でＬＯＭナイトを行うという事を含めた中で、こちらの石亭さんを札幌青年会議所が利用するという事を、留萌青年会議所が検討しているという事でございます。確定しだい、宿泊先につきましてはご連絡させていただきます。

熱田理事

現役には関係ありませんが、たまにOBから連絡が来まして、大きな都市は泊まる所があるけれども、留萌で泊まる所ないのかという話 comes と、ややこしくなりますので、その辺臨機応変に対応をお願いします。

竹原委員長

特別会員におかれましても、今年の卒業予定者の皆様の顔を見ましても、大変多くの特別会員にかけつけていただけたと思いますので、宿泊を伴うという事になれば、広報渉外といたしましてもしっかりと対応出来るようにしたいと存じます。

玉腰理事長

私も卒業予定者ですので、よろしくお願いいたします。

13. 討議事項

(1) 2010年度(社)札幌青年会議所 ブルーアース基金規定変更(案)について

岡澤専務理事

資料に基づき説明

【意見・質問】

荒木副議長

時代の流れという事で、よろしいのではないかと思います。

田中議長

同じ意見です。

松井理事

同じ意見です。

玉腰理事長

ブルーアース基金につきましては、基金から事業費を捻出していただくという事で、特別会員の皆様にもお話を申し上げなければならないと考えております。しかしながら、LOMの現状を見ると、こうしていかなければ授与式が行えないのではないかとこの部分から、このような討議上程をあげさせていただいております。皆様のご理解を得た後に、総会で決議されましたら、来年からそのような形で予算取りをさせていただこうと思います。

(1) 2010年度(社)札幌青年会議所 ブルーアース基金審査委員選定ガイドラインの見直し(案)について

岡澤専務理事

資料に基づき説明。

【意見・対応】

齊藤理事

外部の方が入っている、入っていないという事については、どちらでも良いと思います。問題は、意図しないところに行ったというのは何故かという部分で、きっと理事長所信に目を通しておらず、本年度はこのような所に出したいのだという事が伝わっていなかった

のだと思います。その部分の意思疎通が出来ていれば、外部の人であろうとなかろうと、そういった団体を選ぶということは無いと思いますので、それを意見として申し上げます。

熱田理事

外部審査委員会で、OBの方々からご意見をいただくと聞いた事があります。例えば、OBの方を、どのくらい入れたいと考えていますでしょうか。

岡澤専務理事

それを含めて、理事の方々からご意見をいただきたいと思います。

熱田理事

副理事長を軽視する訳ではないのですが、副理事長は必要が無いような気がします。直前理事長は副委員長として慣例的に残っていると理解しておりますが、例えば私などはJ CのOBの方で、固有名詞を出す事で誤解をしないで欲しいのですが、牧先輩、橋本剛先輩に長年携わっていただいている部分がございます。ブルーアースに関しては多くの経験値をお持ちだと伺っておりますが、このような機会があるのならば、OB会会長、幹事長にお願い出来るものなのかどうか。理由在って会社が無い方もいらっしゃるの、その辺は考慮しなければなりません、一部OBという表現は悪いかも知れませんが、もっとパイプを使って、基金を使う事ですから、OB会会長、幹事長は入れていただきたいと思います。あと、我々現役メンバーに関しましては、やはり委員会という組織がありますので、委員会から吸い上げていただきたいと思います。ブルーアースは、私も含め、もっともっと勉強しなければならないと考えております。

玉腰理事長

あくまでも私の意見という事でお聞きいただきたいのですが、私のブルーアースに対する考え方は、基本的には、先輩や我々も一部お金を入れてきた基金として言わせていただければ、委員会が連携推進して携わってきた所だったり、本当に陽の光が当たらないような部分で頑張っている組織であったり、またはJ Cを卒業して、セカンドステージとして頑張っている先輩であったり、仲間であったり、そういう所に積極的にお金を拠出していくのが、私は正論だと思います。どこに出してもお金をいただけるような組織ではなく、そういう所に出すからこそ、青年会議所らしいのかと捉えております。皆様に誤解していただきたくないのは、先ほど2名の固有名詞が出て参りましたが今年審査委員会に一次選考から、次回の推薦に至るまで、この組織を押して欲しいとか、こうしてやって欲しいとか言われたことは一度もありません。それ以外に、先輩方が絡んでいるところで、「私は今こういう所で頑張っていて、こういう団体があるのだ」と、選考する時に、よく議案を読んで欲しいと言われた事があります。しかしながら、私は、そもそもそういう所を応援してあげたいのだというスタンスでいるものですから、これは逆に皆様からもお話を聞きたいと思った部分でございます。これから先、皆様が青年会議所を卒業され、また卒業とは関係なく、今頑張っている組織があって、このような素晴らしい事業をしているのだというものがございましたら、胸を張ってブルーアースに申請していただきたいです。事務局長並びに委員長が連携推進する組織があって、このように手伝って貰い、このように頑張っているのだから、是非ブルーアースへという事であれば、逆にしていただいても良いのではないかと私は捉えています。これは決して三役の話という訳ではなくて、私個人の

意見としてお聞きいただければと思います。討議段階で、私の意見をはっきりと述べさせていただいた方が良くと思いました。

14. その他

(1) 仮入会者の登録状況について

荒木副議長

資料に基づき説明。

(2) 会員募集進捗状況

田崎事務局長

資料に基づき説明。

(3) 今後のスケジュール

白井常務理事

資料に基づき説明。

(4) その他

なし。削除。

15. 監事講評

鈴木監事

第6回理事会、皆様お疲れ様でございました。北海道地区会員大会LOMナイトの上程が出てきて、本当に一つ一つが最後なのだと、自分は卒業予定者なのだと、改めて感じておりました。今日はクールビズで良かったと思います。サッカーで伊達へ行っておりましたが、顔だけでなく首も大変な事になっております。ちゃんと準備しておけば、計算しておけば、今日はクールビズでなくても良かったのですが、日焼け止めでも塗っておけば、また、首の周りにタオルでもかけておけば、今日はクールビズの有り難さを感じなかったかも知れません。

先ほど伊澤理事をはじめ、多くの理事者の質問を受けて、齊藤室長は、前回にも増してまたあたふたしておりましたが、いただいた意見は真摯に受け止めて、しっかりと先を見据えて事を進めて欲しいと思います。具体的に申し上げてしまうと、実行委員会を伴う事業は大変見えにくい部分があります。そもそも、今回の上程の話だけについて言えば、大枠として札幌青年会議所でやっていくのだと、その上で実行委員会については、今後も継続して報告して参りますという事であれば、こんなに時間を要さなくても良かったと思います。1時間以上、私と荒木監事は、黙って聞いていただけですから、若干苦痛でした。時間は本当に大切にに使っていただきたいと思います。卒業を控え、改めて言っておきたいと思いました。

今日、審議いただいたことは、一生懸命やって欲しいと思います。突き抜けるほど一生懸命やるから、あんな事業やったよね、こんなこともあったよねと語り合える、それがJCだと思います。手抜きをせずに頑張って貰いたいという事を切にお願い申し上げまして、私の監事講評とさせていただきます。本日はお疲れ様でした。

荒木監事

第6回理事会、長時間に亘りお疲れ様でした。理事会の議事、内容に関して申し上げようと思ったことは、今、鈴木監事がおっしゃったので、私の出向者報告をする場面も無いものですから、この場を借りてそのお話をさせていただきます。まずは、先ほど直前理事長のご挨拶にもありました通り、6月20日の道央エリア交流事業に多くの皆様のご出席をいただいた事を、出向メンバーの一人として御礼申し上げます。有難うございました。あちらでは、熱田理事に、10年目の理事にこんな事をさせて良いのだろうかと思うくらい、献身的に支えていただきまして、幸せな晩年を送っております。その様子は交流事業でご覧いただけたかと思しますので、もう一つの出向先である日本J Cの人間力大賞運営委員会の報告をさせていただきます。前日の6月19日に、札幌では公開討論会が開催されていましたが、東京で、人間力大賞運営委員会の一次選考会という事で、高橋室長と一緒に東京で設営して参りました。渡部副委員長は本当にLOMでは見た事が無いくらい頑張っておりまして、明けた21日には、あまりの頑張りに体調を崩して検査入院をしてしまったくらいです。人間力大賞につきましては、皆様ご存知かと思いますが、昨年の授賞式で、当時の安里会頭は、本当にそれぞれの地域で、日本のために、地域のために頑張っている人材がまだまだこれだけ沢山居るのだ、日本も捨てたものではないというような事をご挨拶されておりました。また、今年の相澤会頭も、人間力大賞のエントリーに関してですが、エントリーを各ブロック、各LOMにお願いする中で、この人間力大賞のエントリーについては、どれだけ各地のLOMが地域にアンテナを張っているか、そのバロメーターになる事業だとおっしゃっておりました。そういう意味では、本年度私たちも、皆さんにちょっとしかご案内せずに、高橋室長中心に出向メンバーだけでエントリーをかき集めてしまったという所がございまして、各委員会が大変な中、これ以上負担をかけさせるのもどうかと思いつつも、各委員会にそれぞれ協働されている団体、個人の中に、該当者を探していただいてエントリーしていただくべきだったと反省しております。

会議体、各委員会におかれましては、本年度も、冒頭、理事長のご挨拶にもありましたように、半分過ぎてしまいました。今、事業も佳境を迎え、それぞれ非常に大変な時期であると思います。かなり厳しい状況も、運動を推進していく中には、おそらく有るのだろうと思います。是非、その逆境といえますか、苦しい時に、人間の真価が問われるものだと私は思います。順風の時は、誰がやっても上手く行くのです。苦しい時、逆境、向かい風の時に、人間の真価が問われると思います。そんな事を、挫折を知らない私に言われたくないと思われるかも知れませんが、是非、苦しい時こそ真価が問われ、また、J Cにおける成長というのも、そういった事を乗り越える事によって、初めて得られると思います。また、仲間作りという意味においても、楽しい時間、上手く行っている時だけを、楽しいねと言いながら、うわべだけを過ごすのではなく、そういう苦しい時だからこそ、皆で力を合わせて乗り越えて行く、そういった事をして初めて、一生付き合えるような仲間が出来ると思いますので、是非、今それぞれの委員会、会議体で、苦しいこともあると思いますが、それを楽しんで乗り越えて行っていただきたいという事を申し上げまして、私の第6回理事会の監事講評とさせていただきます。有難うございました。

１６．次回理事会開催の確認

平成２２年７月２７日（火） １８：３０より

会場：札幌第一ホテル

１７．閉会

議事録署名人 田中 良弘

議事録署名人 荒木 康充